

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部
令和元年度 研究発表会
報 告

1. 趣 意

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部では、都市計画に関する日頃の研究内容や実践活動を広く発表する機会を設けることを目的とし、支部研究発表会を開催します。

発表いただく内容は研究論文に限ることなく、都市・地域づくりの現場における実用性に寄与する実務報告や実践報告も含めたものとし、都市計画に関連する分野の方々の情報交換や交流の機会になることを期待します。

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部長 小松 正明



小松 正明 支部長

2. 日時・会場

- (1) 日 時：2019年11月16日（土曜日）12時30分～17時15分
- (2) 会 場：北海道大学工学部A棟2階 アカデミックラウンジ1・2
- (3) タイムテーブル：12:30～13:30 ポスターセッション
13:30～14:40 開会式・基調講演
14:50～16:50 研究発表セッション
16:50～17:15 閉会式・優秀ポスター表彰式
17:30～19:30 懇親会（北海道大学工学部食堂）

3. 後 援

日本建築学会北海道支部、土木学会北海道支部、日本造園学会北海道支部、北海道都市地域学会、日本計画行政学会北海道支部、日本都市計画家協会北海道支部、北海道地域観光学会、北海道市長会、北海道町村会、北海道開発局、北海道、札幌市

4. ポスターセッション

<一般部門>

No.	研究発表タイトル、◎研究代表者（所属）、共著者
1	災害時を考慮した道の駅の情報発信機能に関する研究 ◎高野伸栄（北海道大学公共政策学連携研究部）、前田尚人
2	札幌都心部における緑視率の変化、および緑視率測定方法の効率化 ◎本間理子（北海道大学農学院）、愛甲哲也
3	札幌市の都市公園における通常再整備と機能分担に対する地域住民意識の比較 ◎黄貝嘉（北海道大学大学院農学院）、愛甲哲也
4	松浦武二郎の足跡とアイヌ語地名を辿るツアーコース造成と広域観光 ◎佐賀彩美（一般社団法人北海道開発技術センター）
5	海外における日本の「道の駅」モデルによる地域開発の可能性について ◎松田泰明（国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所）、岩田圭佑、田中努
6	放課後児童クラブの発展と期待される役割 ◎所美穂子（岩見沢市教育委員会）、向井正伸、鈴木栄基
7	中国海南島における少数民族文化の観光開発と景観デザイン —海南檳榔谷黎苗文化旅游区を事例に— ◎陳爽（北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院）

<テーマ部門>

No.	研究発表タイトル、◎研究代表者（所属）、共著者
8	趣味縁による都心空間の暫定利用について ◎加藤康子（北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院）
9	流雪溝を舞台としたまちづくりの挑戦 ◎西大志（苫前町まちづくり企画）
10	地域における鉄道の観光資源の活用と地域鉄道の維持に関する研究 —JR九州肥薩線と人吉市を事例として— ◎寇昕陽（北海道大学国際広報メディア・観光学院）
11	未利用資源の活用による冬の観光まちづくりの促進過程 —スウェーデン・キルナ市のアイスホテル創造プロセスを事例に— ◎福山貴史（北海道大学 観光学高等研究センター）

5. 基調講演

【論 題】ニセコ町のまちづくり

【講 師】ニセコ町長 片山 健也 氏

【講師略歴】1953年（昭和28年）3月16日生 1978年11月ニセコ町役場採用、後に町民総合窓口課長、環境衛生課長、企画環境課長、総務課参事、教育委員会町民学習課長、会計管理者、教育委員会学校教育課長兼学校給食センター長を歴任 2009年7月退職 2009年10月ニセコ町長就任。

<社会活動> 国土交通省地域振興アドバイザー、札幌大学大学院法学研究科非常勤講師、札幌大学法学部非常勤講師、NPO法人しりべつリバーネット運営委員、ニセコようていフットパス推進協議会幹事、ニセコ町スキー連盟理事、ニセコ雪崩ミーティング事務局長、経済産業省ものづくり地域戦略会議委員、北海道住宅審議会臨時委員、北海道水資源保全審議会委員 など。

(出典：かたやま健也 HP <http://katayamakenya.com/>)



基調講演 ニセコ町長 片山健也氏

<講演内容> ニセコ町のまちづくり／片山健也氏 ニセコ町長

町民のニセコ町に移住する理由

北海道ニセコ町は人口 5.1 千人ほどの町で、現在は横ばいもしくは微増傾向にあるとのこと。移住者にも恵まれ、移住理由としては自然の豊かさや静かな環境といった理由に加え、「ニセコだから」という町の評判で移住を決める方もいらっしゃることを指摘されました。そして、町長は胸元から一冊の冊子を出します。『ニセコ町まちづくり基本条例』です。「町の憲法」は町の風通しを良くするだけでなく、町の評判を高め、移住理由ともなるのです。

わたしたちのまちの「憲法」づくりへ

現在、拡大経済の行き詰まり、経済・教育格差、地球環境問題といった世界規模で解決すべき問題が山積みです。その中、町でできることは、ニセコを開拓した有島武郎の相互扶助精神を思い出し、まちづくりを進めていくことだと町長は主張します。

そこで、町長は公益・公開・公正を基調とした自治体の在り方を目指すべく、多くの改革を進めました。例えば、職員の採用方法を見直し、研修に厚みを持たせ、職員ひとりひとりが世界の情勢を見極め、町民を的確にサポートできる職員となることを目指した改革。また、すべての会議を公開原則とし、町財政を「見える化」する町民参加型の「財政民主主義」の体現。96年から現在 177 回も開催された「まちづくり町民講座」を通し、職員は町長の補助機関ではなく、住民に自ら政策を語るスキルを身に付けていきました。

そして、スキルを高める職員に呼応し、住民もまたニセコビュープラザでの物販や町立図書館運営の参画などまちづくりに積極的に関与してくれるようになりました。

これらの情報公開・住民参加のまちづくりが町の当たり前となるよう、全国初の自治基本条例を策定するまでに至りました。今では、ニセコ町の取組が全国の自治体経営の参考となるまでに成熟しています。

ニセコ町の環境政策

現在のニセコ町の重要施策もお話いただき、そのひとつとして環境政策が挙げられました。例えば、過度な開発を防ぎ、ニセコの環境を守るため、条例を駆使し外国資本による大規模開発を規制。将来町内のすべてのエネルギーを再生可能エネルギーで賄うことを目標としております。水資源や景観資源といった自然環境を守るため、自治立法権をどれだけ駆使していくかが問われる時代となっていくでしょう。

ニセコ町の観光施策

ニセコ町はパウダースノーで世界的知名度があります。しかしながら、バックカントリースキーは雪崩事故のリスクもあります。そのため、雪氷研究者と協働で深雪エリアへの立ち入りルールを定め、世界中のスキーヤーが安心してニセコ観光を楽しめる環境づくりを行ってきました。

このように、ニセコの自然環境を守るため、環境・観光分野においても適度に規制をかけながら、良質な環境を提供し続けることも怠りません。すべては羊蹄山麓特有の景観と環境を守りながら持続可能なまちづくりを進めていくことに本質があるのです。

日本都市計画学会誌支部トピックス(北海道支部)から引用

6. 研究発表セッション

今年度の研究発表会においては、「持続的なまちづくり」をテーマとして、研究発表を募集しました。このテーマに対し、4本の多様な研究の応募がありました。これに、一般部門としての7本の研究を合わせ、計11本の研究発表が行われます。

本研究発表会は、土木、建築、造園及び関連分野の研究について、通常は各学会等で分野別に議論される研究テーマについて、都市計画、まちづくりという視点から多様な観点からの議論が行われるのが大きな特長です。

発表の進め方としては、研究発表者、大会参加者が一堂に会して、ポスターセッションを行った後、実行委員会より事前に依頼した発表者の方々による両部門毎の討議セッションを設けることで議論の深化を図ることとしております。みなさまの活発なご議論を期待します。

日本都市計画学会北海道支部副支部長・研究発表会実行委員長 高野 伸栄



高野 伸栄 実行委員長

発表セッション1. 一般部門	
発表者、共著者	タイトル
◎本間理子（北海道大学農学院）、愛甲哲也	札幌都心部における緑視率の変化、および緑視率測定方法の効率化
◎佐賀彩美（一般社団法人北海道開発技術センター）	松浦武四郎の足跡とアイヌ語地名を辿るツアーコース造成と広域観光
◎松田泰明（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所）、岩田圭佑、田中努	海外における日本の「道の駅」モデルによる地域開発の可能性について
◎所美穂子（岩見沢市教育委員会）、向井正伸、鈴木栄基	放課後児童クラブの発展と期待される役割
◎陳爽（北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院）	中国海南島における少数民族文化の観光開発と景観デザイン—海南檳榔谷黎苗文化旅游区を事例に—

発表セッション2. テーマ部門「持続的なまちづくり」

発表者、共著者	タイトル
◎加藤康子（北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院）	趣味縁による都心空間の暫定利用について
◎西大志（苫前町まちづくり企画）	流雪溝を舞台としたまちづくりの挑戦
◎寇昕陽（北海道大学国際広報メディア・観光学院）	地域における鉄道の観光資源の活用と地域鉄道の維持に関する研究—JR 九州肥薩線と人吉市を事例として—
◎福山貴史（北海道大学観光学高等研究センター）	未利用資源の活用による冬の観光まちづくりの促進過程—スウェーデン・キルナ市のアイスホテル創造プロセスを事例に—

司 会：小篠隆生氏（北海道大学）

コメンテーター：

愛甲哲也氏（北海道大学）

篠宮章浩氏（国土交通省北海道開発局）

高橋秀士氏（札幌市）



研究発表セッション

7. 優秀ポスターの発表

賞	研究発表タイトル	研究者	所属
支部長賞	未利用資源の活用による冬の観光まちづくりの促進過程—スウェーデン・キルナ市のアイスホテル創造プロセスを事例に—	◎福山貴史	北海道大学観光学高等研究センター
一般部門 優秀賞	海外における日本の「道の駅」モデルによる地域開発の可能性について	◎松田泰明、岩田圭佑、田中努	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
一般部門 学生奨励賞	札幌市の都市公園における通常再整備と機能分担に対する地域住民意識の比較	◎黄貝嘉、愛甲哲也	北海道大学大学院農学院
テーマ部門 優秀賞	流雪溝を舞台としたまちづくりの挑戦	◎西大志	苫前町まちづくり企画
テーマ部門 特別賞	趣味縁による都心空間の暫定利用について	◎加藤康子	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

以 上